

三浦半島の医療の歴史 ⑮

I Saw the Light, 福井記念病院（中）

昭和大学精神神経学教室・関東労災病院 金川 英雄

前回三浦半島は平穏だが、県東部の精神医療は乱れていると書いた。医師会雑誌であり、先生方に読んでいただいて、多少は役にたつ内容を書きたいし、身内以外から批判、指摘を受けると悔しいので続ける。

2016年10月26日に、厚生労働省が、精神保健指定医（以後指定医と記す）89人を取り消した。指定医および申請者が49人、それを教育する指導医が40人だ。

26機関、12都道府県で大学病院、大病院も複数含まれた。関西の大学病院では、主任教授も対象となった。取消前に辞退をした8人と、新規申請者の4人も不正と認められ、計101人に上り、発効は2016年11月9日付¹だけだ。報道の翌日に一般人の友達との電話で、お前の名前は無かったなと冗談を言われた。実名報道なので、私も知っている医師の名があり、厳しい処置だ。

指定医は昔の精神衛生鑑定医が変化、発展したものだ。精神科病院での自由を制限する医療行為を、法的に明確化しようという意図で制定され、主に次の事ができる。

- ①措置入院、いわゆる「自傷、他害のおそれ」のある精神病患者を指定の精神科病院に強制入院させる。
- ②家族の希望で、精神科病院の閉鎖病棟に医療保護入院させる。

特に②の方は精神科病院には閉鎖病棟が多いので、資格が無いと入院業務ができず、勤務が難しい。いろいろな縛りがあるため、メンタルクリニック開業は構わないが、総合病院精神科責任者も就労困難だ。

背景にはそれに先立つ提出レポートを医局

内で写し回した、M大学精神科大量資格停止処分と、相模原市障害者福祉施設での連続殺傷事件がある。措置入院をして、早期退院させたのが神奈川のK大学病院精神科だった。辞退したうちの1人は殺傷事件容疑者の措置入院を診断した人だった。

国家資格なので、相当強力な全国調査をしたようだ。厚生労働省は今年の通常国会に、精神保健福祉法改正案を提出²する。5年ごとの資格更新時に、実務経験を新たに求めるようだ。

今まで知らなかったが、青山会福井記念病院（理事長内藤圭之）では、研修プログラムを実施している。今述べた指定医と精神神経学会専門医の資格取得を目指す医師向けだ。プログラム担当者は高屋淳彦院長で、指導責任者は日比野浩之副院長だ。福井記念病院は464床で急性期治療病棟、認知症疾患の治療病棟、ストレスケア病棟、思春期ユニット、合併症病棟を持っている。

指定医は精神科3年以上を含む5年以上の臨床経験を有する精神科医が講習を受ける。その上で、統合失調症2例、措置入院か医療観察法、気分障害、中毒性精神障害、児童思春期、老年期精神障害、器質性精神障害各1例の計8例のケースレポートを提出する。実はこれが大変なのだ。

内科で言えば、循環器、消化器、腎臓、肝臓、呼吸器、内分泌、神経内科の患者を受け持ってそれぞれの症例レポートを出せということに匹敵する。患者を隔離拘束する法的解釈が、指定医をみなし公務員とする国家資格なので、出せば全員通るというものではない。

当然メンタルクリニックや小さな精神科病院に勤務していたのでは、多様な症例が集まらず、指定医になることはできない。大学病院かそれに準じた精神科病院で、ということになる。大学医局や大病院での医局員のなれ合いで、レポート回しがおきたようだ。

福井記念病院にはCT（図1 - CT）もあり、老年期精神障害、器質性精神障害にも対応が出来、レポート作成が可能だ。他にも関内クリニックとみくるべ病院を持っている。関内クリニック³はJR根岸線関内駅北口にある。うつ病の復職支援プログラム（リワーク）もしている。リワークとはうつ病で休職、退職された人の復職支援である。再就職を目指す方の復職、再休職防止を目的としたディケアである。

他にも神奈川県立精神医療センター（センター長岩井一正、指導責任者小澤篤詞）⁴と神奈川県立こども医療センター⁵と連携を持っている。（図2 - 2015年の5施設全体の症例数）これだけ強力では、レポートの使いまわしはできない。影が深いと光が際立つ。

精神医療センターは県が精神医療の中心と考えている病院である。1929（昭和4）年3月開業の「芹香院」と、1963（昭和38）年4月に治療開始の「せりがや園」を統合して、2014年12月に323床の「県立精神医療センター」となった。



図1 - 全身CT
（福井記念病院ホームページより）

2015年一年間の5施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	109	162
F1	1610	395
F2	2955	1352
F3	1964	881
F4 F50	780	297
F4 F7 F8 F9 F50	670	166
F6	67	35
その他	76	4

疾患はICD-10、福井記念病院ホームページより。

図2 - 2015年一年間の5施設全体の症例数

「芹香院」は府県立精神病院としては早期、1920年東京府立松沢病院、1924年県立鹿児島病院精神科分院、1926年大阪府立中宮病院の次で4番目に建設された。医療センターに行ったことがあるが、バスは本当に当時芹が生えて香ったような沢沿いを登る。

精神科病院建設は、行幸⁶と関係がある。行幸時、精神障害者収容の現地対策として建設されたという都市伝説が各地にあった。実際建設年月日と行幸年を照らし合わせると、相関関係がある。

今までは行幸の露払い収容施設として造ったと、否定的に言う人が多かった。詳細に見ると、莫大な行幸予算の一部を使い、なかなか進まない精神科病院を建設したようだ。

学校なども造られ、神奈川県行幸では、1929（昭和4）年4月23日には、県立横浜高等女学校（現県立平沼高校）で、昭和天皇行幸記念体育大会⁷が行われた。（図3は行幸記念アルバムより）当時県に、高等女学校が5つあり他に、平塚、厚木、小田原そして横須賀高等女学校（現横須賀大津高等学校）があった。当然、行幸に先立って、多額の学校整備費が与えられたと思われる。

帝国大学精神科三代教授、呉秀三が愛弟子樫田五郎⁸を内務省に送り込みその計画を推進したと私は予想した⁹が、二人が行幸と深い関係を示す証拠が見つからない。

世の中にはお墓マニアという人がいて、有名人の墓の場所をインターネットで公開して



図3—横浜平沼高等学校の1929（昭和4）
行幸記念体育大会の様子

いる。そのため榎田五郎の情報は少ないが、谷中霊園の乙4号3側に墓があるのは分かった。私は思いあまって土曜日午後、勤務が終わって谷中墓地を訪ねた。苦労の末榎田家の墓を見つけたら、長兄榎田亀一郎の墓もありそこに「侍医医学博士」と刻まれていた。（図4—墓）ちなみに当時は墓に皆、「医学博士」とほり込んだ。

明治天皇の侍医だったのだ、太いパイプがあるはずだ、私は感動して立ちすくんだ。そこは猫のえさ場で、警備員がいた。こんな偉い人の墓で困ったものだと感じたが、墓石碑



図4—榎田亀一郎の墓

の銘文をメモしました。30分程して振り返ったら、警備員はまだいた。見張っていたのは、猫ではなく挙動不審の自分だと気が付き、そそくさとその場を去った。

精神科の話はもう少し続く。

¹2016年11月9日付：[<https://www.m3.com/open/iryoshiin/article/471367/.2017/1/21>]

²精神保健福祉法改正案を提出：朝日新聞デジタル2016年12月21日。[<http://www.asahi.com/articles/ASJDP4VV0JDPUTFK00H.html.2017/1/21>]

³関内クリニック：〒231-0048神奈川県横浜市中区蓬莱町1-1-3 belle関内5F。

⁴神奈川県立精神医療センター：〒233-0006神奈川県横浜市港南区芹が谷2-5-1

⁵県立こども医療センター：〒232-0066神奈川県横浜市南区六ツ川2丁目138-4

⁶行幸：天皇が外出すること。御幸みゆきと言う場合もある。行く先が複数の場合は巡幸じゆんこうと言う。

⁷行幸記念体育大会：[<http://www.yokohamahiranuma-h.pen-kanagawa.ed.jp/album/album1.html.2017/1/28>]

⁸榎田五郎：1883（明治16）年から1938（昭和13）年2月2日。

⁹予想した：金川英雄『日本の精神医療史』青弓社、東京、2012、172～174頁、行幸特別予算。